

# 読みつつ生き、 生きつつ読む 自伝的読書論

朝岡勝◎著



「本」との出会い、そこにある「ことば」と「人格」との出会い。  
読書という人格的体験に秘められた出来事に、  
どれほど人を成長させる力があるのか。  
「本」の力を再発見する、体験的読書録！

## 目次

- |                                         |                                     |
|-----------------------------------------|-------------------------------------|
| 第1章 どのように本を読んでいるか、<br>どのように本を読んできたか     | 第5章 土台が固まり、思考が動き始めた<br>40代後半から50代前半 |
| 第2章 少しずつ本と出会っていった10代から20代前半             | 第6章 この間に会ってきた本たち                    |
| 第3章 たくさん本を集め、読んだ20代後半から30代              | 第7章 読みつつ生き、生きつつ読む                   |
| 第4章 読まざるをえないものを読むようになった<br>30代後半から40代前半 | 附 録 本書に登場してきた本たち                    |

## 著者

朝岡 勝(あさおか・まさる)

1968年茨城県出身。東京基督教短期大学、神戸改革派神学校卒。岡山、東京での伝道牧会、学校法人東京キリスト教学園理事長を経て、現在、日本同盟基督教団市原平安教会牧師。著書に、『ニカリア信条を読む』『ハイデルベルク信仰問答を読む』『増補改訂「バルメン宣言」を読む』『喜びの知らせ』『光を仰いで』『信じること、生きること』『三位一体の神と語らう』ほか(以上、いのちのことば社)、『教会に生きる喜び—牧師と信徒のための教会論入門』『大いに喜んで』(教文館)ほか。